



農業用水路が織り成す景観 かねやま おおせき 金山大堰

金山大堰とは

山形県北部に位置する最上郡金山町に全長約2.6 kmに及ぶ農業用水路「大堰」がある。戦国時代の末期に開削され、昭和52年から始まった改修工事により、現在の姿に改修された。大堰は、農業用水としての本来の機能と集落の生活用水、冬期間は消融雪の用水として町の中心部を流れ、人々の暮らしを支え続けている。

町並みと自然との調和

農業用水路として造成された大堰だが、毎年春から秋にかけて集落内を通る区間に鯉の放流が行われている。米の生産調整で盛んになった錦鯉の養殖を産業として振興させるための取り組みの他に住民が親しみや慈しみを持つ環境を造り、「汚してはならない」との意識を強く持たせて景観づくりに取り組んでいる。

現在では大堰を中心として親水のための公園や観光客との交流施設などが整備され、町の歴史・文化・暮らし・観光のすべてが交わり、町並みと自然の調和が図られた町民の憩いの場であり、美しい町並みのシンボルとなっている。

大堰公園



街角交流施設「マルコの蔵」

金山大堰の施設管理

守り人

金山大堰は金山町水利組合が町や地域住民、付近の事業所などと協力し金山町水利組合が管理している。

組合の活動内容として、6月に総会を開催、8月に大堰の水を抜いて草刈りや土砂上げ、10月に役員で改修などの要望箇所調査や検討会を実施している。

組合長の伊藤重好さんは「『大堰』は地元の人にとって重要な施設であり、水が流れていて当たり前^{しげよし}の存在。水門などの一部の施設が耐用年数を過ぎているなど課題はあるが、点検を丁寧に行って施設の長寿命化を図り、大切にしていきたい」と抱負を語ってくれた。



金山町水利組合
組合長 伊藤重好さん



土砂上げの状況

地元の建設会社も施設管理に協力している。



要望箇所調査の状況

近年は越水が多くなっているが、監視員が水門で水位管理を徹底している。

金山大堰の特徴

疎水百選

通常の水路の改修はコンクリート水路に整備するものだが、町並みに調和し、次世代へ繋ぐ財産にした^{とこみどり}いの思いで石積み水路に整備していくこととなった。

平成 18 年に日本の農業を支えてきた代表的な用水路として認められ、「^{そすい}疎水百選」に選ばれている。



家庭井戸への干渉を考慮し、底面には穴開きブロックを使用し、水を地下に浸透させている。

とこみどり
「常緑杉山

清流の町

四方にめぐらして光しずけき水清き町」

これは、昭和 32 年 2 月に制定された「町の歌」である。金山町は国内最大級の杉の美林を誇り、神室山系から流れ来る清流が金山大堰を通して町の中を縦横に走る。この歌詞から現在まで続く金山町の情景を伺い知ることができる。



清流の流れる宅地内水路